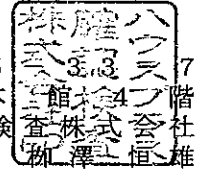




受付日：平成29年12月11日
 受付番号：HP17-KT175

接合部性能試験成績証



東京都港区芝5
 徳栄ビル本館4階
 ハウスプラス確認検査株式会社
 代表取締役社長 柳澤恒雄

試験結果は以下のとおりであることを証明する。
 平成30年3月26日

1. 接合金物名称	クリ20コーナー(床合板30mm対応) K20G30
2. 試験依頼者	株式会社 栗山百造 〒955-0096 新潟県三条市井戸場84-9
3. 目的	当該接合金物を用いた接合部の短期基準接合耐力(引張)を評価する。
4. 試験内容	柱頭柱脚接合部及び横架材端部接合部を想定した隅柱型引張試験 なお、準拠する試験方法・評価方法は、ハウスプラス確認検査株式会社制定「木造建築構造試験事業における接合部性能試験業務方法書(平成21年4月1日制定)」による。
5. 試験体仕様	<p>1) 接合金物</p> <p>「クリ20コーナー(床合板30mm対応) K20G30」 1個 材質: SGHC(JIS G 3302^{*1}) 寸法: 55mm×65mm×150mm(外形) 板厚t=4.5mm 接合具用孔 7-φ7.4mm(柱側) 接合具用孔 4-φ7.4mm(横架材側) 表面処理: Z27(JIS G 3302^{*1})</p> <p>2) 接合具</p> <p>柱側^{*2}: 「クリスパイラルビス 7×65」 7本 材質: SWRCH22A(JIS G 3507-1^{*3})相当材として以下の化学成分を満たすもの C(0.18~0.23%), Si(0.10%以下), Mn(0.70~1.00%), P(0.030%以下), S(0.035%以下), Al(0.020%以上) 寸法: φ7.0mm(最小断面径φ4.8mm) L=65mm 頭部径φ11.0mm 先端形状は、とがり先とする。 表面処理: ダクロタイズド[*]</p> <p>横架材側: 「クリ六角頭ビス 7×120」 4本 材質: SWRCH22A(JIS G 3507-1^{*3})相当材として以下に掲げる鋼線^{*4} SAE 1022^{*5} SWRCH22A(JIS G 3507-1^{*3}) 寸法: φ7.0mm(最小断面径φ5.0mm) L=120mm 頭部径φ11.0mm 先端形状は、とがり先とする。 表面処理: ラスパート処理</p> <p>3) 軸組材料</p> <p>柱材^{*2}: 105mm×105mm×700mm スギ 無等級材 含水率: 14.5~15.0% 全乾密度: 0.35~0.39g/cm³</p> <p>横架材: 105mm×105mm×800mm スギ 無等級材 含水率: 15.0~15.5% 全乾密度: 0.36~0.41g/cm³</p> <p>床合板: 90mm×105mm 厚さ30mm 構造用合板 JAS 1類1級 含水率: 10.0~10.5% 全乾密度: 0.37~0.38g/cm³</p> <p><small>*1 JIS G 3302 溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯 *2 試験体は柱頭柱脚部を想定しているが、横架材端部の接合で用いる場合は、柱材を横架材材として読み替える。 *3 JIS G 3507-1 冷間圧造用炭素鋼-第1部: 線材 *4 試験ではSAE 1022を使用した *5 SAE Internationalが定める規格</small></p>
6. 試験条件等	試験体の固定は、柱芯から横架材木口側200mmの位置にM16ボルトと角座金(100mm×100mm 厚さ9mm)を用いて鉄骨架台に緊結した。(締付トルク管理値: 50N・m) また、加力時に柱の偏心を防止するためのサポート治具を設けた。
7. 試験結果	短期基準接合耐力 22.6 kN (詳細については接合部性能試験報告書に示す)
8. 試験場所	ハウスプラス確認検査株式会社 横浜第二試験所: 神奈川県横浜市鶴見区矢向1-1-1 10番
9. 試験実施日	平成29年12月21日、22日
10. 試験実施担当者	ハウスプラス確認検査株式会社 評定部 家納 吾郎 道場 信義 宇山 善博

この接合部性能試験成績証を転載するときは、必ず全文を記載してください。